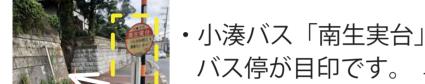


# 文化財マップ 案内図



- 白いコンテナが目印です。
- 左折して細い路地を下って 行きます。





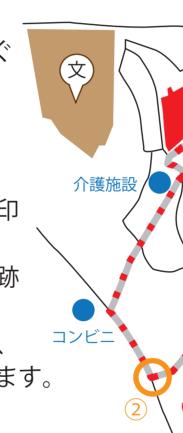
バス停を過ぎてすぐ 左折します。



・カーブミラーが目印 です。

・右折すると小弓城跡 へ向かいます。

・直進すると供養塚、 八剱神社へ向かいます。



5

明徳学園

校内案内図

※校内を通行できます。

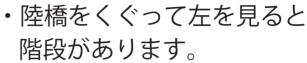
坂道を下っていきます。

・右手側に供養塚、左手側 に八剱神社があります。



至

大森台駅



上ると駅へ着きます。





カーブミラーが目印です。

右折します。



・京成千原線の線路が見え たら線路沿いに歩いてい きます。



千葉市教育委員会文化財課 2020年12月

徒歩5分

化財に指定されています。

ています。

八劔神社は、社伝によると日本武尊が東征の

際に当地に起こっていた国境争いを平定し、改

めて国境を定めたことに感謝して、土地の人々

が東国鎮護征夷神として祀ったのが始めとされ

祭神は日本武尊を主神とし、天照大神と大己

貴命を合祀しています。また、八劔神社には神

楽舞が伝わっており、昭和38年に千葉市指定文

最終百へ



出羽三山信仰は江戸時代 中期以降、羽黒修験の山伏 によって関東地方にも広め られました。

は、年1回、8月のお盆過ぎ に、家内安全や交通安全を 祈願し、梵天をこの供養塚 に立てる行事を行っていま す。

南生実町の出羽三山講で

詳しくは

徒歩5分

京成線 学園前

徒歩15分

まいぞうぶんかざいちょうさ

### 千葉市埋蔵文化財調査センター 見学目安 20分

本施設では、発掘調査、出土資料の整理 及び学校への普及事業等を通し、市内遺跡 の保存や活用を行っています。展示室では、 土器や石器などの遺物や発掘調査記録を常 時公開しています (観覧料は無料)。開館 日は、土日、祝日、年末年始(12月29日~ 1月3日)を除く、平日午前9時~午後5時 15分です。

神楽については 次頁へ!

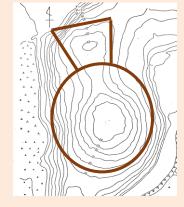
徒歩15分

だいかくじやまこふん

#### 大覚寺山古墳 見学目安 10分

昭和45年に発見された全長約63mの前方後円墳です。市内では 最大規模を誇り、舌状台地の先端部を加工して墳丘を造営してい るのが特徴です。

発掘調査は実施されておらず定かではありませんが、研究の結 果、築造年代は古墳時代中期前半(5世紀前半)と推定されてい ます。この時期は、南関東に古墳が出現する時期で、東国の古代 社会を研究するうえで重要な古墳です。このような遺跡の重要性 から、昭和46年に千葉県指定史跡に登録されました。





おゆみじょうあと 小弓城跡 見学目安 5分

おゆみ地区には「生実城」と「小弓城」の 2つの城があります。史料上、「生実城」と 「小弓城」の名称が明確に区別されていたわ けではないため、詳細ははっきりとしていま せんが、小弓城は生実城の支城として築かれ たと推定されています。

ゆかりのある人物として は「小弓公方」と称され た足利義明がいます。

かつては大規模な堀や 土塁も残っていましたが、 現在は埋め戻され、その 姿を見ることはできませ ん。周辺には「城山下」 「古城」、「東堀」な どの字名が残っています。



## 八剱神社の神楽

### そもそも神楽とは?

神楽は人間の生命力の強化・復活を図るため、鎮魂、清め、祓いをする祭祀であり芸能です。また、死霊を祀り鎮め、浄化させるためにも行われます。定式は、神座を設けて神々を迎え、祈祷や歌舞音楽、酒宴をした後に、神送りをします。

民間の神楽の基本形態は「採物神楽」、「湯立神楽」、「巫女神楽」、「獅子神楽」の四種類に分類されます。 実際には、それぞれの要素が混在している場合が多いです。

今日の神楽は、鎮魂の祈祷よりも余興的、娯楽的な芸能に主体が移ったものが多いです。

### 八剱神社神楽の起源

社伝によると、享保元年(1716)、社殿の再建 遷宮式が挙行される際に、上総国一ノ宮玉前神 社より神楽師が訪れ、神楽を奉納したといわれ ています。

また、上総一ノ宮神楽連は享保元年より前の元号、正徳年中にも、一度神楽を行ったという記録が残っています。



#### 神楽の特色

舞う場所は、拝殿とは別に神楽殿が設けられており、能舞台を模した三方吹き抜けになっています。無言劇の形態をとり、老人面、神様面、おかめ面、ひょっとこ面、狐面等の仮面を用います。以上の特徴から、江戸神楽の系統に属するものと思われています。

『正徳年中於八剱社両日御神楽執行次第』によると**36座(**演目)の神楽が奉納されていましたが、座数と演目内容・呼称は時代によって変化しています。現在は、**12**座からなる神楽で「十二座神楽」と言われています。

#### 神楽書

江戸時代後期の本社神主吉野重泰の記した『神楽書』、 『神前神楽行事』、『神楽次第』、『御神楽抄』の4冊の神 楽書が伝えられています。

神楽とともに千葉市文化財に指定されています。

### 現在の神楽

現在の祭礼は2年に一度、7月27日に行なわれており、八剱神社の神楽殿にて公開されています。

神楽を行わない年には神輿にあわせてお囃子を実施しています。



## 南生実町の出羽三山講

#### 出羽三山とは?

山形県庄内平野の南西部に所在する月山、湯殿山、羽黒山を指します。

三山登拝の信仰は15~16世紀ごろから 人々の関心を呼び、近世を通じて東日本に 広まりました。

#### 現在の三山講

現在では年1回、8月の第三日曜日に行っています。廣照寺で梵天を作り、塚に持っていき祈願を行い、寺に戻り置会をします。昔は五穀豊穣を祈願していましたが、最近では家内安全や交通安全を祈願しています。塚は、かつては村のはずれにありましたが、おゆみ野の宅地造成の影響で現在の場所に移転されました。

### 供養塚とは?

梵天と呼ばれる三山登拝記念碑を納めて 祀る塚のことです。三山参りを果たした人 を行人ということから行人塚とも呼ばれて います。

#### 梵天とは?

三山信仰の標識となる、紙と竹で作られるものです。地域ごとに形や立て方が異なります。



学園前駅東側は遺跡の宝庫! 文化財マップを作成して いますので、あわせて巡って みてはいかがでしょうか。



の遺跡めぐりおすすめコース 「京京千原綾おゆみ野駅からJR健取駅まで、「春の道」送多道約2.6mをたどるコースです。ツツジ、サケ キ、クスノキ、ハナモクレン、トキワサンザシ、コブシなど3月から5月に開花し、株も株える街路費が値えられています。

ここから有吉公園までの間

は「景谷津」という幅の広い谷

津がありました。名前の通り

な水を集めて川が流れていま

いました。現在は谷の一番奥

の部分だけが残され、泉谷公

このあたりには「表揮支谷」と呼 ここは高沢遺跡の一面でした。学園前駅付近に ばれる谷津がありました。谷津の あった有吉遺跡とともに、古墳時代後期から平安 時代、5世紀から10世紀まで長く続く集落跡でした。 両岸の台地はほぼすべて遺跡と 聴積具・鉄線・火打ちがね・紡錘車などの農具や 道具、銅製匙、帯金具や灰釉陶器など地域の有 は有吉北貝塚の住民が、丸木弁 見つかっています。豊善土器には「大新家」と書か れたものがいくつか見つかっています。「大」という 始めから平安時代主では各時期 の集落がありました。豊富な湧水 を活かして谷津田が作られていた 焼印です。「大新家」は牧の経営も行っていたので しょう。「大」の焼印が押されたウマが緑の映える 春の草を食んでいた様子が浮かびます。

公園の下には、縄文中期の大きな集 落跡である有古北貝塚の集落と貝層の 型具塚ができましたが、そのなかで一番

解明が進んでいることで知られています。

デッキに上がり 美取駅に変 ります。今は韓区の中心と なったこの付近は都川水系と

さくら公開から練遊防撃、練

区役所の権を通り、ゆみーる



駅の北側には椎名崎古墳群日支群が、

群と、古代の集落と古墳群が集中してい ました。椎名崎古墳群B支群の人形塚 です 原囲を二重の港に囲まれた立派 な古墳であり、「人形塚」の名前の通り、 発掘調査でたくさんの増齢が、埋葬施設 からは直刀14本が見つかりました。発掘 当時、地表面に引かれた地割り線が分 て発見されたことから新聞で大 国で初めて発見されたこきく取り上げられました。

ところが、30地点を発掘調査をしても中世城郭の痕跡は見つかりませ んでした。一方、原田小の先、大百池公園にある「「大台灣路」にも「城」 の地名がついており、こちらが「有吉城」ではという説もありました。

ここは春の道とおゆみの道の分岐点に

あたります。有吉公園の付近は有吉城園

という遺跡でした。ここは、江戸時代に書

かれた「軍配物」と呼ばれる中世の動乱

遺跡は台地ごとほぼ全面が保存されていますが、遊歩道や広場な どを作る前に発掘調査をしました。調査範囲はわずかでしたが古墳 時代から平安時代の住居跡が疎開なく広がっており、おゆみ野に

遺跡の名前にもなっている城に関しては、「虎口(こぐち)」や「原曲輪 (こしぐるわ」」と呼ばれる施設が見つかりましたが、本来あるべき台地 とを区切る据や土具などがありません。 結局、このあたりに宣記論に

#### おゆみ野の巨人伝説

はるのみち公園で東側に曲がり、有吉小

を越えるとおゆみ野を南北に貫く都市計画

道路機部茂呂町線があります。このあたり

にあった東二重福運路からは住民路の中

から幾(ウミウまたはカワウ)をかたどった

います。とても徐しいものです。鉄道と呼ば れる大きな鉄の振も出土しました。鉄の素

ものでもあります。

日本人が、古くから先住屋の存在を意識していたことは、 奈良時代に書かれた『常陸国風土記』によって知ることが できます。そこには、ずっと昔、大棚というところに巨人が いて、長い手をのばしてハマグリを食べ、貝が積もって丘 となったとあります。この大棚の丘は、茨城県水戸市場所に現存する国籍を主節大量目標にあたり、大量に行き



みがあり、これを巨人の足あとと見なしたと考えられます。近くには六通貝塚や大陽野南貝塚があることから す。近くには、通見準ト人間が 国人が海まで手を伸ば、て見を食べ、それを捨てて見 競の丘ができたという伝説が、いつの間にか忘れられ てしまい、地名だけが残されたのでしょう。開発工事で 地形は失われてしまいましたが、「

日本各地に伝えられています。海から離れた場所にあるたくさんの買物に対する疑問が伝説となり、自分たち

とは違う存在を認識することにつながったのでしょう。

するものと考えられます。この遺跡のある台地上に



詳しくはこちらのマップをチェック